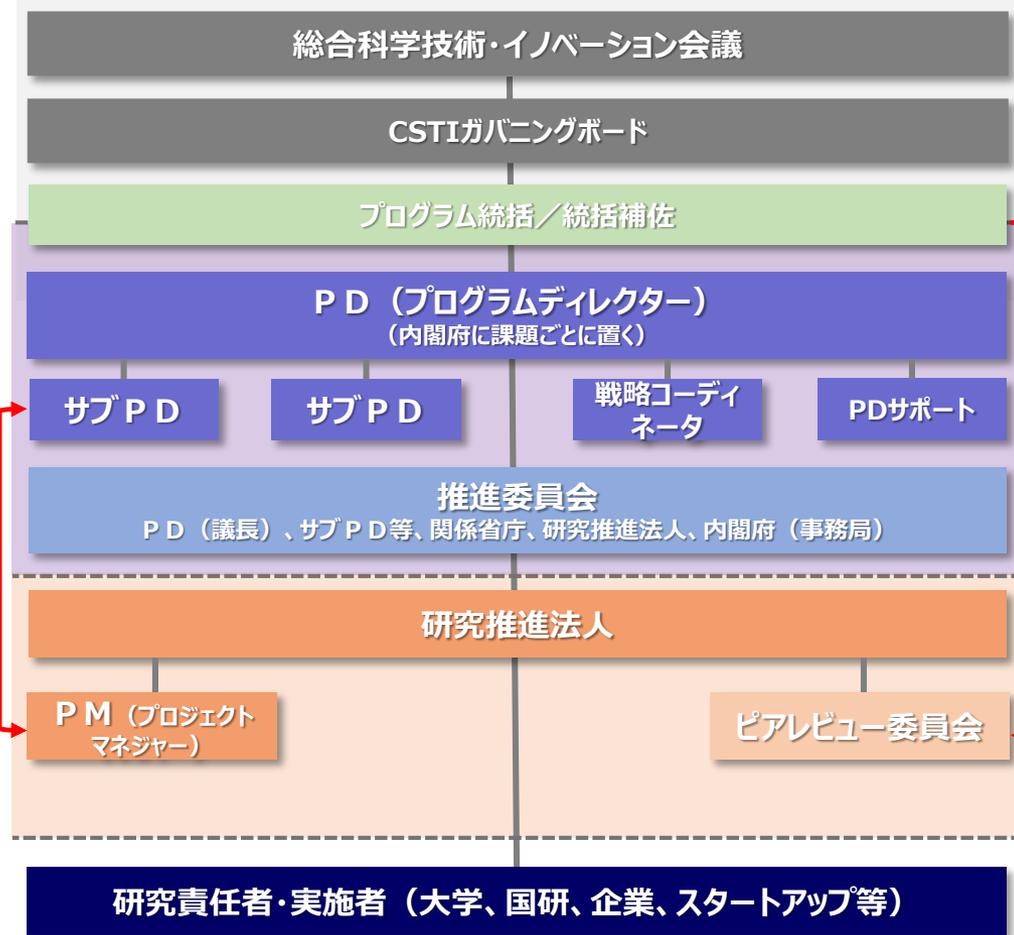


3レイヤーによるマネジメント体制の構築

- ガバニングボード、PD、研究推進法人が持つ機能を効率的かつ効果的に活用し、次期SIPにおいて、技術開発のみならず、多角的な視点から社会変革に向けた取組を推進するため、以下のとおり**3レイヤーによるマネジメント体制を構築**する。
- 各レイヤーは、独立し又は一方的に関与するものではなく、**相互に関連するものであり、コミュニケーションを取りながら、進める体制を構築**する。



政府方針 (CSTI)
 ガバニングボードは、課題 (ミッション) の設定、課題ごとのPDの選定・予算配分の決定、課題全体としての評価 (社会実装に基づく戦略を中心に) を実施

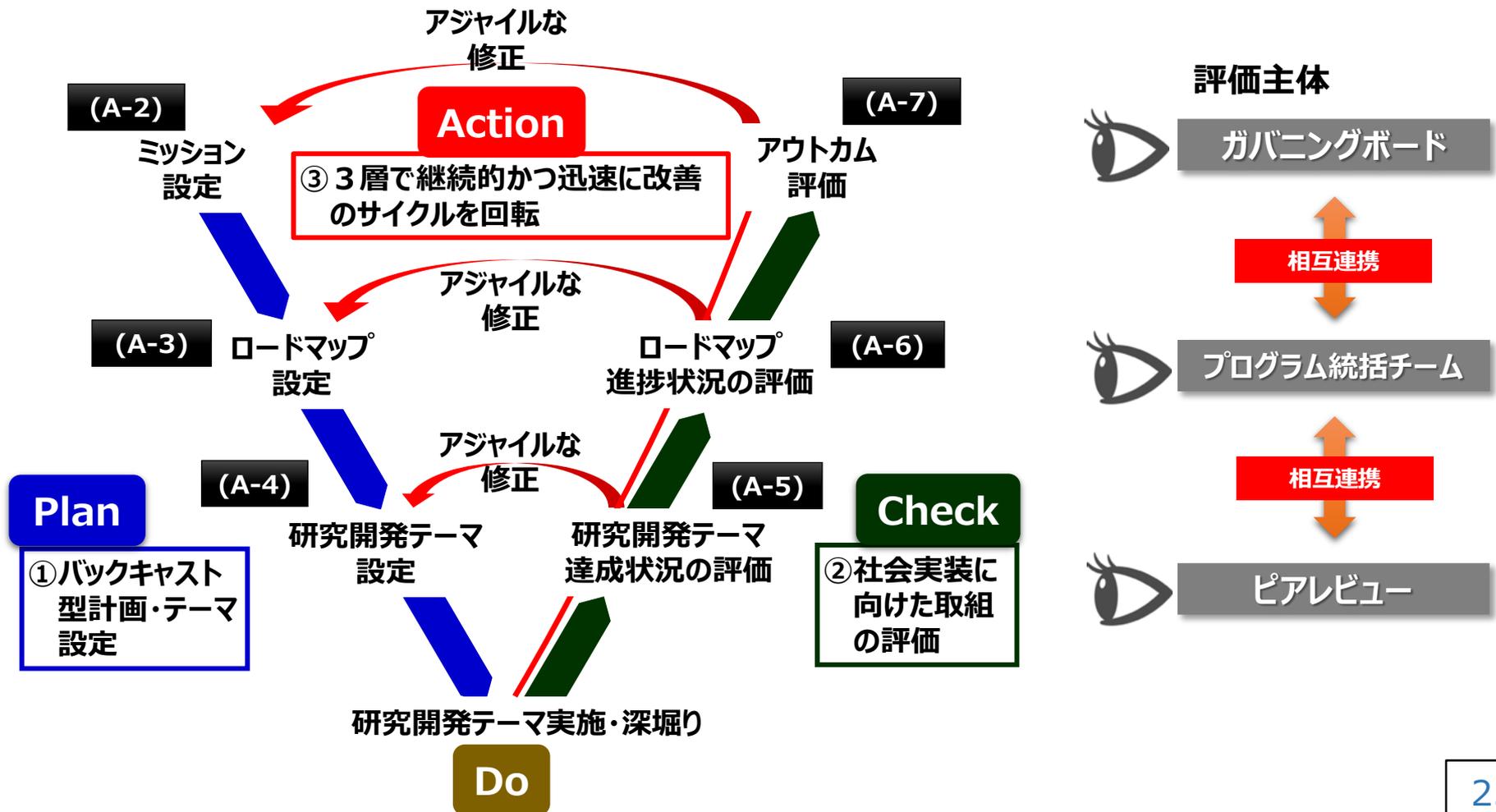
評価に当たって
 ピアレビューに参加

政策の企画立案 (内閣府)
 PDは、社会実装に向けた戦略・研究開発計画の作成、研究開発テーマの目標設定・予算配分、関係PJへの提案、関係省庁の施策・産業界の取組等との連携を実施

プロジェクト実施 (独立行政法人)
 研究推進法人 (PM) は、研究開発テーマのマネジメントとして公募・契約、予算管理に限らない事業支援、ピアレビューを実施

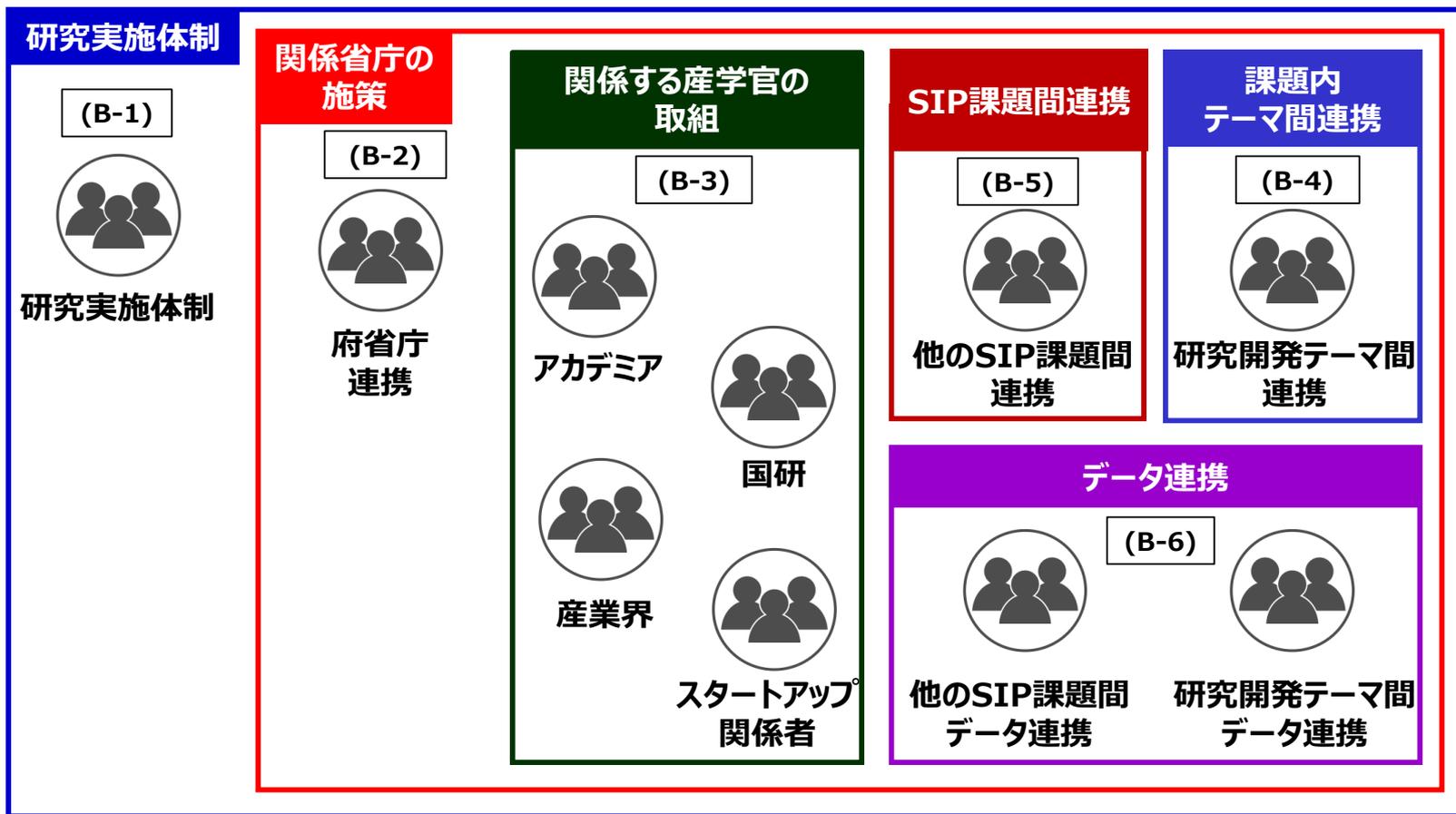
評価の考え方：「A. 課題目標の達成度と社会実装」

- V字モデル(①バックキャスト思考、②社会実装に向けた評価、③アジャイルな修正)による評価
- ① Society5.0実現に向けたビジョンの下に、バックキャストによるミッション・ロードマップ・テーマの設定
 - ② テーマの達成度、ロードマップの進捗状況、社会実装に向けた取組・波及効果の評価
 - ③ 本評価により、3層で「計画・運用・評価・改善」のサイクルを継続的かつ迅速に回転するガバナンスモデルを構築



評価の考え方：「B. 課題マネジメント・協力連携体制」

- ① 研究実施体制を基に、② 関係省庁の施策、③ 関係する産学官の取組、
- ④ 課題内のテーマ間連携、⑤ 他のSIP課題間連携・シナジー効果、
- ⑥ データ連携（課題内テーマ間、他のSIP課題間）、について評価



(1) 統括チームによる評価体制

- 課題評価WGとピアレビューとを整理統合し、ピアレビューの仕組みを生かし、専門的な評価を行いつつ、横断的な視点も含む評価が行える体制に改める。
- ピアレビューのクオリティを確保するため、委員構成はガバニングボードの了解を得ることとするとともに、横断的な視点からの評価を行うため、プログラム統括又はプログラム統括補佐（プログラム統括チーム）が必要に応じて評価に加わることとする。

(2) PD会議について

- PDで構成される「PD会議」を設定する。PD会議によりSIP課題間の情報共有や、マネジメントの工夫（マネジメントの成功事例など）の共有を図る。
- PD間で互いを知る機会を増やすため、SIP課題間でのコミュニケーションツール（Teamsなど）の開発等を検討する。